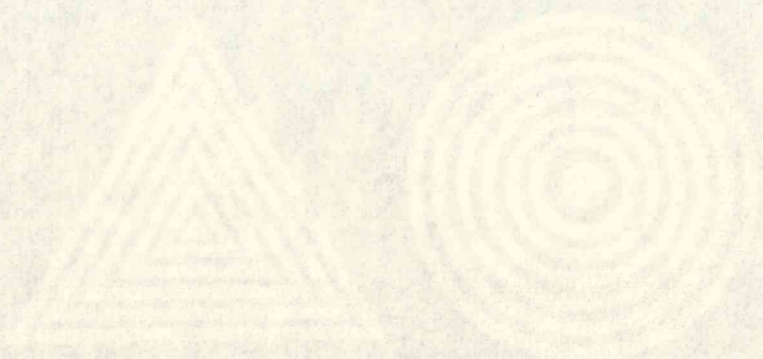


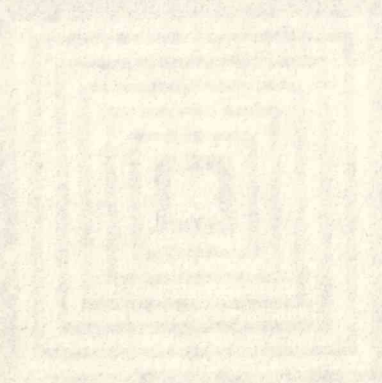
1998年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画



高平88er
画信義翻



老太郎宅山秋

「演習」等研究テーマ、使用教科書一覧

担当者	研究テーマ	使用教科書
〈経済学部〉「演習3」		
荒木英一	数量経済分析入門	経企庁（編）『経済白書』（大蔵省印刷局） （各自用意すること）これ以外に関してはプリントを配布
安藤洋美	偶然性の考え方について	福場 庸（著）『意志決定論の基礎』 （現代数学社）
伊代田光彦	日本経済分析	経済企画庁（編）『経済白書（平成9年版）』 （大蔵省印刷局）
上野勝男	クレジット社会の虚像と実像－おカネってなんだろう？－	鈴木久清（著）『クレジット社会 虚像と実像』 （新日本出版社）
梅本哲世	戦後日本経済の歴史的研究	中村隆英（著）『昭和経済史』（岩波書店）
桂 昭政	日本経済の現状と改革	追って指示する。
木村二郎	金融ビッグバンと日本経済	未定。テキスト決定しだいE-Mailで連絡するので、各自第1回目の演習前に生協で入手すること。
熊谷次郎	日本の経済思想	テッサ・モーリス・鈴木（著）／藤井隆至（訳） 『日本の経済思想－江戸期から現代まで－』 （岩波書店）
芝村篤樹	都市について考える	その都度指定する。
庄谷邦幸	日本の産業転換と地域経済・中小企業	その都度指定する。
鈴木 健	現代資本主義の理論的諸問題	
滝田和夫	世界大恐慌の研究	ピーター・テミン（著）猪木武徳 他（訳） 『大恐慌の教訓』（東洋経済新報社）
竹歳一紀	食料・資源・環境をめぐる諸問題	未定（環境経済学のテキストを予定）
竹原憲雄	高齢化と国際化と分権化の政策分析	未定
津田和夫	日本の金融システム	鈴木淑夫・岡部光明（編）『実践ゼミナール 日本の金融』（東洋経済新報社）
津田直則	21世紀に向けての社会と経済	文献はすべてコピーで配布する。

担当者	研究テーマ	使用教科書
野田知彦	日本的雇用慣行の経済学	荒井一博（著）『終身雇用制と日本文化』 （中公新書）
濱田博男	現代資本主義の研究	日本経済新聞社（編）『ゼミナール・日本経済入門（最新版）』（日本経済新聞社）
落谷硯児	日本の金融・経済システムの変革 ーイギリスとの比較の視点からー	NRIヨーロッパ（著）『ポスト・デフレの日本経済』ーイギリス200年の盛衰に学ぶ21世紀日本の進路ー（野村総合研究所）1996年
藤岡純一	スウェーデンと日本の経済・社会・政治についての比較研究	岡澤憲美（編）『スウェーデンの経済』 （早稲田大学出版部） 〃（〃）『スウェーデンの社会』（〃） 〃（〃）『スウェーデンの政治』（〃）
前田治郎	現代のヨーロッパ経済	なし
前田徹生	現代人権の諸問題	常本照樹、松井茂記、棟居快行、市川正人、笹田栄司、赤坂正浩（著）『基本的人権の事件簿』（有斐閣）
松尾純	戦後日本の経済と社会を考える	奥村 宏（著）『法人資本主義の構造（新版）』 （社会思想社／現代教養文庫） 宮崎義一（著）『複合不況』（中公新書）
三邊信夫	国際経済理論研究	渡辺太郎（著）『国際経済』（春秋社）
モグベル ザファル	アジア経済とASEAN	青木 健（著）大西健夫（編）『ASEAN躍動の経済』（早稲田大学出版部）
望月和彦	わくでき 惑溺からの解放ー日本社会の冷徹な理解に向けてー	山本七平（著）『日本人とは何か（上・下）』 （PHP文庫） K.V.ウォルフレン（著）『日本権力構造の謎（上・下）』（ハヤカワ文庫）
矢根眞二	規制改革の経済分析	経済学部のHPに掲示。
吉見研次	会社法判例の研究	河本一郎（編）『判例マニュアル商法Ⅱ会社法』（三省堂）
〈社会学部〉「専門演習3」		
石田易司	障害者・高齢者の組織キャンプ	石田易司（著）『痴呆性老人とキャンプ』 （朱鷺書房） 〃 『さかさまの量産』（子ども書房）
上田修	社会現象の社会学的研究	その都度、指示する。

担当者	研究テーマ	使用教科書
上野谷加代子	地域福祉方法論研究 ーコミュニティケアマネジメントを中心にー	竹内孝仁（著）『ケアマネジメント』 （医歯薬出版）
小川 登	岐路に立つ社会保障の研究	福祉士養成講座編集委員会（編）『社会保障論』（中央法規出版） 厚生省（編）『厚生白書（平成9年版）』（ぎょうせい） 鳥田とみ子（著）『年金入門』（岩波新書）
郭 麗 月	精神保健福祉領域とソーシャルワーカーの役割	授業時指定する。
軽部 恵子	国際社会を見る目	特になし。
北川 紀男	人口の高齢化に伴う文化変容ー現代文化の理解に向けてー	別途指示する。
北野 誠一	福祉施設のサービスガイドライン作り	使用する資料等はゼミ中に適宜指示する。
小西 加保留	保健医療分野におけるソーシャルワーク論	保健医療ソーシャルワーク研究会（編）『保健医療ソーシャルワーク・ハンドブック〔理論編〕』（中央法規出版）
清水 由文	「食」の社会学	未定
鈴木 富久	現代社会と人間主体	井上・谷口・林（編）『転換期と社会学の理論』（法律文化社） 小林・大関・鈴木・竹内・伊藤（共著）『人間再生の社会理論』（創風社）
鈴木 博信	世界をよむ・ロシアをよむ	1. 演習開始まえに文献リストを配る。 2. このほか、「日本経済新聞」をかならず購読のこと。（ゼミでも使用する。）
瀧澤 仁唱	現代日本の社会福祉と権利	必要があれば授業中指示する。
竹内 真澄	現代日本の社会文化史的考察	
竹中英紀	都市の社会的世界とサブカルチャー	C.S. フィッシャー（著）松本康・前田尚子（訳）『都市的体験』（未来社）1996年。
中村 秀之	映像の社会学	J.クレリー（著）遠藤知巳（訳）『観察者の系譜』（十月社）1997年 松浦寿輝（著）『平面論』（岩波書店）1994年 他、随時指示する。
西川 一廉	ワークとファミリーの心理学	未定

担当者	研究テーマ	使用教科書
沼田 健哉	宗教現象の社会心理学的ならびに社会学的研究	L.フェスティンガー他（著）『予言がはずれるとき』（勁草書房） 三井宏隆他（著）『認知的不協和理論』（垣内出版） マックス・ヴェーバー（著）『宗教社会学』（創文社）
松村 昌廣	来世紀に向けて日本の外交を考える	北岡伸一（著）『戦後日本外交論集』（中央公論社）
松本 眞一	児童福祉と少年非行	松本眞一（著）『児童福祉論』（相川書房） 松本眞一（編）『非行学入門』（相川書房） 松本眞一（著）『少年保護と児童福祉』（相川書房）
宮本 孝二	社会学的分析の実践	
村山 高康	現代国際政治研究	後日指示する。
森本 良男	国際コミュニケーション過程の変動とジャーナリズムの機能	テキスト、資料は追って指示する。
〈経営学部〉「専門演習3」		
明石 吉三	情報システムの意義と将来の方向	別途指示。
井上 義祐	企業と経営情報システム	追って指示する。その他、随時プリントを配布する。
今木 秀和	企業分析	後日指示する。
岡崎 守男	現代の企業と金融・証券市場	日本証券業協会（編）『証券外務員必携（全4冊）』（日本証券業協会）
鬼塚 光政	現代生産システムの動向—トヨタ生産方式についての考察	門田安弘（著）『新トヨタ・システム』（講談社） *他は追って指示する。
面地 豊	日本経営史	山崎広明（編）『「日本的」経営の連続と断絶』（岩波書店） 橋川武郎（編）『日本経営史4』
清水 信匡	会計の立場からの企業経営の研究	伊丹敬之、加護野忠雄（著）『ゼミナール 経営学入門』（日本経済新聞社）
鈴木 幾多郎	ベンチャー・ビジネスとマーケティング	柳 孝一・山本孝夫（著）『ベンチャーマネジメントの変革』（日本経済新聞社） 松田修一（編）『ベンチャー企業の経営と支援』（日本経済新聞社）

担当者	研究テーマ	使用教科書
ソ 徐 龍 達	新しい「国際会計」を学ぶ	未定。平松一夫『国際会計の新動向』 (中央経済社) 権泰殷『国際会計』(創成社) その他の文献 を検討したうえで指定する。
武 田 久 義	保険と保障の将来	後日指示する。
谷 口 照 三	環境指向経営の実態と課題	落合洋文(著)『環境とは何かー内なる世界 と外なる世界の調和を求めてー』(ナカニシ ヤ出版)1996年 デビッド・コーテン(著)『グローバル経済 という怪物ー人間不在の世界から市民社会の 復権へー』(シュプリンガー東京)1997年
チョン 全 在 紋	ビジネス・ゲームを通しての経営財務感覚の 錬磨	協和醸酵(著)『人事屋が書いた経理の本』 (ソーテック社)
中 田 信 正	会計学と実践財務諸表分析	飯野利夫(著)『財務会計論(三訂版)』 (同文館) 中田信正(編)『セミナー資料:入門バラン スシートの読み方(1998年3月期決算)』 (大阪簿記会計学協会)〈配布予定〉
野 田 俊 範	現代企業社会システムの研究	適宜指示する。
長谷川 彰	日本の企業を考える	三戸 公(著)『「家」としての日本社会』 (有斐閣)
パク 朴 大 栄	財務会計と監査	井上・斎藤・英和監査法人(編)『会社の決 算と開示'98年版』(中央経済社)
堀 友 章	財務会計と財務分析	未定
牧 野 丹奈子	情報化時代における企業組織のあり方	特になし。
〈文学部・英語英米文学科〉「セミナーⅠ」		
岡 田 章 子	英詩鑑賞	上島建吉(編)『リリカル・バラッズ(Ⅰ) ー詩と自然ー』(研究社)
小 野 良 子	演劇に見るイギリスの社会と文化	オスカー・ワイルド(著)『真面目が肝心』 (北星堂) アラン・J・ターナー(著)『マイ・フェア・ レディ』(英光社) ジョン・オズボーン(著)『怒りをこめて振 りかえれ』(開文社)
清 水 真 一	統語理論と英語の構造	Radford, Andrew: <i>Syntactic Theory and the Structure of English</i> (Cambridge)

担当者	研究テーマ	使用教科書
中井紀明	エミリー・ディキンソン研究	ディキンソン全詩集 ディキンソン全書簡集
萬戸克憲	英語教育における異文化間コミュニケーション	D. R. Levine、M. B. Adelman (共著) 『 <i>Beyond Language-Cross-Cultural Communication</i> Second Edition』 (Prentice-Hall Regents)
〈文学部・国際文化学科〉「国際文化演習AⅠ」		
片倉穰	日本のなかの外国	担当者が準備する。
Philip Billingsley	現代中国（中華人民共和国）の社会と文化	
横井清	日本文化の研究	
〈文学部・国際文化学科〉「国際文化演習BⅠ」		
赤瀬雅子	フランス文化と日本文化	赤瀬、富田 他（共著）『街角のフランス語』 (駿河台出版社)
遠山淳	日本人の異文化間コミュニケーション	遠山 淳（共著）『異文化コミュニケーション・ハンドブック』（有斐閣）
友沢昭江	世界の中の日本語	森本順子（著）『日本語の謎を探る』ちくま新書（680円）（筑摩書房） 柴田 武（著）『日本語はおもしろい』岩波新書（620円）（岩波書店） 田中克彦（著）『国家語をこえて—国際化の中の日本語』ちくま学芸文庫（880円）（筑摩書房）
山本雅代	バイリンガリズム研究	山本雅代（著）『バイリンガルはどのようにして言語を習得するのか』（東京：明石書店） ジョン・C・マーハ、八代京子（編著）『日本のバイリンガリズム』（東京：研究社出版）
〈全学部・全学科〉「共通演習3」		
伊藤高章	宗教・歴史・身体	随時指示する。
小池誠	現代の東南アジア	なし
志保田務	図書館経営の実際研究	高山正也（編）『図書館経営論』 (樹村房) 1997 ドラッガー、P.F.田代正美 他（訳）『非営利組織の経営』（ダイヤモンド社）1990

担 当 者	研 究 テ ー マ	使 用 教 科 書
冷 水 啓 子 林 陸 雄	「子どものこころの発達と教育」 ー今、家庭や学校で子どもたちは何を学び、 何で遊び、何を悩んでいるのかー	随時紹介する。
生 瀬 克 巳	江戸の危機管理	
野 原 康 弘	イギリス雑学	なし
橋 内 武	オーストラリアの社会と文化	未定
松 浦 道 夫	スポーツと魂	未定
松 永 俊 男	博物館と図書館	開講時に指示する

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅱ (定住外国人問題)		通 期	4 単位	キム スギル 金 秀 吉
[講義概要・学習目標] 日本に在住する約65万人の韓国・朝鮮人は、日本の朝鮮植民地支配（1910～45年）の結果、労働力として強制連行されたり、その他の理由で渡日を余儀なくされた200万人以上の人々のうち、戦後何らかの理由で帰国できずに日本に定住した人々、およびその子孫である。私自身を含む在日者は、植民地時代の皇民化政策による同化強要と、戦後も続く日本社会の民族排外主義のもとで、通名を余儀なくされたり、社会生活においてさまざまな差別待遇を受けている。また在日者の大多数が日本生まれの2～4世となっており、明確な定住化傾向を示す、永住権を持った「定住外国人」である。 本講義は定住外国人の歴史的背景やその独自の文化と民族的アイデンティティへの理解と、日本社会のさまざまな領域における差別の実態を明らかにしていく。そして、川崎市などではじめられている共生社会への模索の取り組みや、外国における定住外国人問題と共生社会への実践も紹介する。 なお、本講義では、映画・ビデオなどの映像テキストを受け手として鑑賞するのではなく、立体的な認識を深めてゆくためのテキストとして積極的に利用してゆく。	[講義計画] 〈前期〉1、定住外国人問題とは何か 2、民族的少数者の人権 3、日本人の韓国・朝鮮観 4、映像の中の在日韓国・朝鮮人（1） 5、映像の中の在日韓国・朝鮮人（2） 6、映像の中の在日韓国・朝鮮人（3） 7、在日社会形成史（1） 8、在日社会形成史（2） 9、在日の生活実態（1） 10、在日の生活実態（2） 11、在日問題の現状 12、前期のまとめ 〈後期〉1、国籍と参政権 2、結婚をめぐる問題 3、在日の民族文化 4、在日の民族教育 5、日本の学校に学ぶ在日児童 6、多民族共生と日本社会（1） 7、民族共生と日本社会（2） 8、外国における多民族共生（1） 9、外国における多民族共生（2） 10、地域社会と在日外国人（1） 11、地域社会と在日外国人（2） 12、年間のまとめ			
[成績評価の方法] 講義中の小レポートを平常点とし、これに全講義終了後の期末のペーパーテストの結果を合わせ、総合的に評価する	[参考文献] 蔵田雅彦（著）『隣人としてのアジア』（日本基督教団出版局） 鄭早苗・徐正禹（監修）『新よりよき隣人として』（KMJ研究センター） 桃山学院大学（編）『定住外国人の人権（改訂版）』（桃山学院大学） 徐龍達（編）『韓国・朝鮮人の現状と未来』（社会評論社） 梁泰興（著）『知っていますか？在日韓国・朝鮮人一問一答』（解放出版社） 大沼保昭（著）『単一民族社会の神脈を超えて』（東信堂） 田中宏（著）『在日外国人（新版）』（岩波新書） 良知会（編）『100人の在日コリアン』（三五館）			
[教科書] 福岡安則（著）『在日韓国・朝鮮人』（中公新書）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅳ (部落問題)		通 期	4 単位	野 口 良 子
[講義概要・学習目標] 若い人たちの中には「部落差別」など過去のことで、触れなければやがて死語になる言葉だから「寝た子をおこすな」という人がいる。しかし、被差別の側からみれば差別は見えにくくなってはいるが在る、被差別の者への人々の眼差しは冷やかで差別的だという。 この落差はどこからくるのか、多数の側に身を置いているときには見えてこなかった市民社会の陥穽が被差別者の側に身をおいたときどのように見えてくるのか、差別に対する関心がどのように展開されてきたのか、市民社会の中の様々な差別と深く関わっている部落差別の現状と課題を検討する。 1965年に出た『同和対策審議会答申』から『人権擁護施策法』の制定、『人権教育のための国連10年』まで、今日の行政施策などを学ぶことから人権の世紀、21世紀をどう生きるのか、学生諸君に自らを問いなおしてもらおう。	[講義計画] 〈前期〉（1） 市民社会と差別 （2） 部落問題とは何か、なぜ部落問題を学ぶのか （3） 部落差別の現状 （4） 階層的な不平等と差別 （5） グループ討議と発表 〈後期〉（1） 差別と偏見 （2） 被差別部落の歴史 （3） 部落解放運動の歴史 （4） 差別の正当化と合理化のしかた （5） グループ討議と発表 （6） 差別意識と啓発活動			
[成績評価の方法] 講義の終わりに感想文もしくはレポートを書いてもらい、それを出席、平常点とする。 前期はレポート、後期は試験。以上を総合的に評価する。	[参考文献] 八木 正・編『被差別世界と社会学』1996年・明石書店			
[教科書] 解放出版社編『部落問題資料と解説』（第3版） 解放出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教概論 (旧キリスト教学Ⅰ)		通 期	4 単位	伊 藤 高 章
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
キリスト教思想は「聖書」「伝統」「理性」の3つの柱に支えられている、といわれる。本講義ではまず、教会の伝統がそれぞれの時代に聖書をどのように解釈してきたかを理解することに努め、次いで、現代に生きる私たちは聖書や教会の伝統にどのように向き合っているのかという課題に取り組むこととする。 教会の権威が伝える「正統」なキリスト教を受動的に学ぶのではなく、そのような権威のあり方自体を批判的に検証する。キリスト教を人類が育んできた世界観の一つとしてとらえ、それと向き合う方法論を身につける機会としたい。	以下の内容を含む イエスの生涯 聖書の成立 「正統主義」聖書解釈と神学 「自然主義」聖書解釈と神学 「ラディカル」聖書解釈と神学			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
随時提出するブック・レポートと学年末のエッセイによる。提出物は原則として E-mail 経由とする予定なので、留意すること。	ジェラルド・ベシエール(著)『イエスの生涯』(「知の再発見」双書 44)、創元社 1995 ドロテー・ゼレ(著)『神を考える - 現代神学入門』(21世紀キリスト教選書 8)、新教出版社 1996			
[教科書]				
『聖書 新共同訳』、日本聖書協会 (旧約・新約) 青野太潮(著)『どう読むか、聖書』(朝日選書 490)、朝日新聞社 1994				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論理学		通 期	4 単位	山 川 偉 也
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
論理的に考えることは、ものごとを学習するうえで基本的に大切なことである。しかし、いまの大学生の現状を観察していると、その基本のところが必要とも充分でないふうに見える。この講義は、その点の改善にいささかなりとも寄与しようとするものである。したがって、高度な論理学研究のことはひとまず置き、ごく初歩的な、しかも日常生活にもすぐ役立つ論理の基本のところを講義することを主眼とする。ただし、講義とは言っても、論理は訓練が肝心であるから、授業時間の半分は練習問題への取り組みで費やされることになるだろう。また、こうした漸進的な授業の性格もあって、毎回教室に顔を出していないと何をやっているのか分からないことになってしまうので、単位をきちんと取るつもりなら、授業には欠かさず出席することが必要である。	前期 1. 日常生活のなかの論理 2. 思考の法則 3. 命題の論理 4. 試験 後期 1. 簡単な復習 2. 述語の論理 3. 様相の論理 4. 試験			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
毎回の出席、小テスト、期末試験の成績を総合して評価する。				
[教科書]				
教科書は今のところ定まっていないが、論理学を教科書なしでやるのは学生諸君にとっては辛いことなので、何とかしたいと考えている。決まり次第に授業時間中に知らせるようにする。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文 学 I (文学概論)		通 期	4単位	佐 藤 慶 子
[講義概要・学習目標] 我々にとって、文学とは一体、何の役に立つのかを考える。親しみやすい近代文学を教材として取り上げる。明治、大正、昭和、平成の各時代の、身近な短編小説を読みながら、時代を超えた人間の生きざまを見詰めてみたい。夏目漱石の「夢十夜」、志賀直哉の「小僧の神様」、川端康成の「掌の小説」中島敦の「名人伝」、太宰治の「女生徒」、三島由紀夫の「反貞女大学」、浅田次郎の「鉄道員(ぼっぼや)」を予定している。登場人物の生き方、考え方を追い掛け、自分と比べることで、自身のこれからを探るきっかけとしてほしい。永い人生の道程を、喜び、悲しみ、苦しみ、悩み、彼らは何を目指し、どこへ行こうとしているのか。彼らの思いを共有する経験が、あなた方の将来において大きな支えや励ましとなるだろう。他人の人生を追体験することによって、予想できない未来の到来を、余裕を持って迎えられるだろう。我を知り、彼を知るのを助けてくれるだろう。	[講義計画] 講義ではあるが、担当範囲を定めて、発表させ、その後、質疑応答と討論で授業を進めてゆく。再履修でもあり、無遅刻、無欠席を目指し、発表者以外にも積極的に参加してほしい。			
[成績評価の方法] ①出席(最重視) ④発表 ②前・後期末試験 ⑤授業中の態度 ③夏・冬期休暇中の課題	[参考文献] ①夏目漱石「文鳥・夢十夜・永日小品」角川文庫 ②志賀直哉「小僧の神様・城の崎にて」新潮文庫 ③川端康成「掌の小説」新潮文庫 ④中島敦「李陵・山月記」新潮文庫 ⑤太宰治「女生徒」角川文庫 ⑥三島由紀夫「反貞女大学」ちくま文庫 ⑦浅田次郎「鉄道員(ぼっぼや)」集英社			
[教科書] コピー配付。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学		通 期	4 単位	清 水 真 一
[講義概要・学習目標] 「人間言語とは何か」をテーマとする。言語は我々にとってあまりに身近なものであり、この問いが真剣な考察の対象となることはあまりなかったのではなからうか。本講では、科学としての言語学とその隣接分野を視野に含めながら、言語をマクロな視点で眺めると同時に、できうる限り明示的なかたちで言語にアプローチしてみたい。そのため、考える思考法と、分析の道具の基本から話を始め、「言語」に対する複数個のアプローチを紹介したい。あまりに身近な存在であると同時に人間を人間たらしめている言語につき、受講生各位に今一度思索を促し、各自各様の考えを醸成する契機となれば幸いである。 出席は特に重視する。	[講義計画] (1) 人間言語とは?—他の「コミュニケーション」システムとの比較論的考察— (2) 数理論的準備 ① 集合論 ② 論理学と形式システム ③ 言語、文法、オートマトン入門 (3) 言語システム瞥見 ① 「生成文法」 ② 句構造文法			
[成績評価の方法] 原則として、定期試験、クイズ、出席に基づき総合的に評価する。	[参考文献]			
[教科書] プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代史		通 期	4 単位	尾 崎 耕 司
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、都市の問題から日本近代史をみなおそうとする動きが活発となっている。本講義では、最近の研究の成果を紹介しながら、主に明治から大正期にかけての日本近代都市のあり方を検討する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>序 章 都市をどうとらえるか？ 第1章 都市「名望家支配」について 第2章 都市下層社会論 第3章 都市と官僚 第4章 都市行政の社会的基盤 第5章 都市と政治 終 章</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>評価は、レポートをもっておこなう。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>原田敬一著『日本近代都市史研究』 (1997年、思文閣出版) ほか</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋史	01	通 期	4 単位	原山 煌
	02	通 期	4 単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は、中国世界を中心とする東アジア世界の歴史を考察することを目的とする。この地域の歴史は、「中華」の誇りをいだけ漢民族と、その周辺に居住する諸民族（漢民族からは「夷狄」と呼ばれる）という2つのグループの葛藤によって展開されてきた、と見ることが可能である。実際、古来この地域では、次々に現れる北方の騎馬遊牧民族の活動によって、中国世界の実質自体が変貌する事もしばしば見られた現象である。</p> <p>東アジア世界の歴史を通観するにあたって、この「華」と「夷」という2つの要素を考察の手がかりとして、歴史像を再構成して行く。現在、中華人民共和国は、多民族複合国家として多くの矛盾をはらみながら存在しているといえる。</p> <p>中国へのしっかりとした認識を持つことは、現代社会においては避けては通れない課題であるが、この講義がその際の一つのヒントになれば幸いである。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全体の構想 2. 中国世界とは－自然と文化の枠組－ 3. 多民族複合国家の実像 4. 「華夷思想」の形成 5. 本講義独自の視点から、時代を追って、中国を中心とする東アジアの歴史を通覧する。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>数回にわたって課す小レポートと、学年末におこなう論述式試験の成績とによって総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>貝塚茂樹『中国の歴史』上・中・下 岩波新書 岩波書店。 宮崎市定『中国史』上・下 岩波全書 岩波書店。 講談社現代新書の中の、新書東洋史シリーズ。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しないが、「参考文献」欄にあげた文献類を一読してほしい。講義に関連する項目や地図などについては、適宜プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学		通 期	4 単位	清 水 夏 樹
[講義概要・学習目標] 集団、組織、ネットワーク、地域社会、福祉文化といった基礎概念とそこから始め、社会学的にも見方、とらえ方はどういふことが理解できるか講述する。社会学は、他の社会科学に較べて若く、その未熟な部分をもつ反面、社会学的な視角（人相側面）が近年認められつつある。そのかくれた面白さと論点をかきまわつ日常的なトピックスにも眼を向けてみたい。現代社会を生み出した歴史性とアイデンティティの基礎と関係の学際性を忘れずに学んでほしいと思う。	[講義計画] <前期> 社会的自我の発達、言葉とコミュニケーション、役割と組織、個人と大衆社会、集合行動とゲームの相互性、文化と行動様式、共同体社会と集合表象、準拠集団の準拠性レベル <後期> 階級と階層、宗教と経済社会、近代化とポスト工業社会、情報ネットワーク化と文化的協同体、消費社会と新しい集団準拠性			
[成績評価の方法] 学年末試験以外に、簡易レポート、同テスト等の成績を加味・評価する。	[参考文献] 「青年文化の聖・俗・遊」（恒星社厚生閣） 「柔かい個人主義の誕生」（中公文庫）			
[教科書] 最初の授業で指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学		通 期	4 単位	亀 田 速 穂
[講義概要・学習目標] 経営学は現代社会における重要な経済活動単位である企業という組織の行動を体系的に説明しようとする学問である。企業の行動に影響を及ぼす要因は多様であるが、大別して、経営者の方針、仕事を遂行する仕組みとしての組織構造のあり方、構成メンバーのモラル（やる気）といった企業の内部組織要因と、産業の競争構造、技術水準、人口動態、法規制などの外部環境要因とがある。企業は外部環境要因からの影響を制約として（また働きかけの対象として）受け止めつつ、そうした制約の中で、これら2つの要因（企業の内部組織要因と外部環境要因）の間に2重の適合関係を保持しようとして、かなりの自由裁量を持って自らの行動を決めている。この授業ではこのような企業の行動をより深く理解する上で必要な基礎的な知識や考え方を身につけることを目的とする。	[講義計画] (前期) 1 経営学の生成と展開 2 企業と経営 3 企業形態の展開 4 所有と経営の分離 5 現代経営者の役割と課題 (後期) 6 経営管理の発展と体系 7 経営環境と経営戦略 8 職能分化と組織構造 9 組織成員と動機づけ 10 環境変化と組織変革			
[成績評価の方法] 前期はレポート（400字詰め5枚程度）、後期は試験を課し、両者を総合して成績を評価する。したがって、後期の試験だけでは単位の修得は困難である。なお、出欠状況を評価に加味することがある。	[参考文献] 伊藤淳巳・西門正巳・亀田速穂（共著）『現代経営学の生成発展』（白桃書房） 土屋守章（著）『現代経営学入門』（新世社）			
[教科書] 植村省三（著）『現代の経営学』（中央経済社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
政治学		通 期	4 単位	村 山 高 康
[講義概要・学習目標] 政治学の内容は多岐にわたり、またその定義も一言では定め難い。そこで本講義は、以下のような限定された内容を進める。 前期：時代は近代以降、地域的には西欧の政治思想や学説を背景に、近代国家の特質や近代デモクラシーの原理を中心に論じる。単なる過去の問題ではなく、日本をはじめ現代世界の直面する政治問題を考えるための基礎的な講義を目指す。講義は近代西欧の歴史的背景をもたどりつつ行うので、歴史への興味をもって受講してほしい。 後期：大変動の時代を迎えた現代世界の政治的課題を、国際政治システムの崩壊から近代国家の変貌、民族紛争や環境問題まで、多面的にとりあげて検討する。多くのテーマをとりあげるが、現代世界の様々な政治的課題の底に流れる本質的な問題をクローズ・アップできるような講義を試みたい。 前期と後期では講義スタイルは異なるが、もちろん、学説・理論・思想・制度など抽象度の高い前期の講義を十分に咀嚼しなければ後期の講義の理解度は浅くなるので、はじめから意欲をもって取り組まれたい。	[講義計画] <前期> 1. 近代国家の成立と新たな政治原理の創出 2. 近代国家の発展と近代デモクラシーの形成 3. 近代国家における政治制度の発達 4. 近代市民社会と市民政治理論の確立 5. 日本の政治—近代化の諸問題 <後期> 1. 国際政治システムの形成と崩壊 2. 近代国家の変貌 3. 民族紛争・貧困と飢餓・環境破壊などへの政治学的アプローチ 4. 自由主義・社会主義・ファシズムと現代世界 5. 日本の政治—政策型思考へのアプローチ			
[成績評価の方法] 前期・後期ともレポートを数回提出してもらい、これとあわせて学年末試験により評価を行う。	[参考文献] 講義の中で随時指示する。			
[教科書] 特定の教科書は使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法 学	0 1	通 期	4 単位	吉 見 研 次
[講義概要・学習目標] 概要 市民の社会生活に関連の深い法分野について、基礎的な知識を講述する。 私語・遅刻は厳禁。 なお、下記の教科書は毎授業時間に携帯すべき本という意味である。 目 標 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。	[講義計画] 1 社会生活と法 2 憲法 1) 基本原理 2) 基本的人権 3) 地方自治 3 民法 1) 総則 2) 物権 3) 契約 4) 不法行為 5) 親族 6) 相続 4 行政法 1) 行政行為 2) 行政不服審査 3) 行政訴訟 4) 地方行政組織			
[成績評価の方法] 学年末テストの成績で評価する。テストはB4判用紙数枚を使った短答式のを予定している。	[参考文献] 伊藤正己・尾吹善人・樋口陽一・戸松秀典(共著)『注釈憲法』(有斐閣) 幾代通・遠藤浩(共編)『民法入門』(有斐閣) 原田尚彦・小高剛・田村悦一・遠藤博也(共著)『行政法入門』(有斐閣) 金子宏・新堂幸司・平井宜雄(共編)『法律学小辞典』(有斐閣)			
[教科書] 芦部信喜 他(共編)『コンパクト六法平成10年版』(岩波書店)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	02	通期	4単位	寺田友子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学習目標 刑事手続を素材に日本国憲法の人権保障について理解を深める。</p> <p>講義概要 日本国憲法は、明治憲法下の人権侵害を反省して詳細な人権保障条項を規定した。日本国憲法制定史をも踏まえて、国家の国民に対する権力行使である刑罰権の発動にかかわる罪刑法定主義を理解する。その前提として、刑罰の意義及び種類並びに犯罪成立要件についての基礎的知識をも体得する。安楽死判決を素材に、それまでの基本的知識を整理し、理解を深める。その判決を学ぶ過程で、法源の機能、法の適用過程等について理解する。</p> <p>次に、日本国憲法の最高法規性を学んだ上で、死刑の合憲判決、尊属殺人罪違憲判決を詳細に検討する。その過程で家族法に関する基本的概念を学ぶ。又平等原則についても理解を得たうえで、非嫡出子の相続分規定の合憲判決も検討する。</p> <p>その上で、法源の種類（憲法の意義、条約、法律、命令、条例、最高裁判所規則、議院規則）、形式的効力等法の効力等についても憲法訴訟（妙川事件、奈良県ため池条例事件、徳島県公安条例事件、NHK放送公布事件、官報公布事件等々）を素材に理解を深める。その際、三権分立等国家の機構についても理解する。これらの憲法訴訟判決を学ぶ過程で、人権保障の内容（刑事補償と国家賠償）と憲法の最高法規性、違憲法令審査制度についても理解を深める。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期 §1 刑罰の種類 2 犯罪成立要件 3 法の適用過程 4 安楽死訴訟 5 憲法の最高法規性と違憲法令審査制度 6 死刑の合憲判決 7 尊属殺人罪と家族法の基礎概念 8 平等原則と尊属殺人罪違憲判決</p> <p>後期 9 法治国家と罪刑法定主義 10 命令概念と行政機構 11 全農林警職法事件と労働基本権 12 条例概念と大阪市宍春防止条例 13 奈良県ため池条例事件と徳島条例事件 14 形式的効力の原則と条約の概念 15 法の時間的効力と公布をめぐる諸般 16 同位の法間の効力関係と国家補償 17 損害賠償における特別法と一般法</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出、出席、授業時間に行うテスト等評価に加味する場合がある。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中谷実編『ハイブリッド憲法』1995年 勁草書房 渡辺洋三著『法とは何か』岩波書店 渡辺洋三著『法を学ぶ』岩波書店</p>			
<p>[教科書]</p> <p>芦部信喜他11名編『コンパクト六法 平成10年版』（岩波書店）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	01	通期	4単位	冷水啓子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 心理学の概要を理解させる。 2 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。 3 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。 4 心理的援助技法の概要について理解させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 人間の心理学的理解 1) 欲求・動機づけと行動 2) 感情・情動 3) 感覚・知覚・認知 4) 学習・記憶・思考 5) 知能・創造性 6) 人格 7) 適応と適応異常</p> <p>2 人間の成長・発達と心理</p> <p>3 人間理解のための心理学理論と技法 1) 基礎理論 ①精神分析 ②行動分析 2) 測定と診断 ①発達 ②知能 ③性格</p> <p>4 心理的援助技法の概要 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法） 2) 家族心理療法 3) 行動療法</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末と後期末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加、レポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>追って指示する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>市川伸一（編著）『心理測定法への招待』（サイエンス社） 井上健治（著）『子どもの発達と環境』（東京大学出版会） 岩田純一・梅本光夫『教育心理学を学ぶ人のために』（世界思想社） 中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣） 河合隼雄・山中康裕（編）『臨床心理学入門』（日本評論社） 福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規） 松原達哉（編著）『最新 心理テスト法入門』（日本文化科学社）</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	02	通 期	4 単位	伊 藤 高 章
【講義概要・学習目標】 Psychology という語は、語源的には魂（たましい）もしくは霊（れい）に関する学問という意味である。そして、人類の歴史においてこの魂や霊のことがらは、長く宗教が扱ってきた。本講義では前期において、宗教と心理学との関係を明らかにしてゆくことを通し、近代心理学のもつ人間観の特徴を理解することを目指す。その際特に、フロイトとユングが展開した無意識に関する理論に注目する。後期においては、他者の魂の声に耳を傾ける姿勢を養う意味で、カウンセリング及び「カウンセリング・マインド」について学ぶ。	【講義計画】 以下の内容を含む <前期> 諸宗教における心のケア フロイトの宗教観・人間観 ユングの宗教観・人間観 近代心理学の展開 <後期> カウンセリングの人間観 カウンセリング理論の前提 カウンセリングの理論			
【成績評価の方法】 出席を重視する。学年末試験。	【参考文献】 随時指示する			
【教科書】 C. G. ユング（著）『自我と無意識』（レグルス文庫 220）、第三文明社 1995 平木典子（著）『カウンセリングの話 増補』（朝日選書 375）、朝日新聞社 1989				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	03 04	通 期 通 期	4 単位 4 単位	伊 藤 正 人
【講義概要・学習目標】 現代の心理学では、実験や観察という客観的方法により、ヒトや動物の行うあらゆる行動を組織的に研究する。心理学の課題は、このような行動へ影響する様々な要因を探索し、行動の原理（法則）を定式化し、我々の日常場面における様々な複雑な行動を説明することである。近代的心理学の出発点は、ドイツの心理学者Wundtがライプチヒ大学に世界で最初の心理学実験室を創設した1879年にさかのぼる。現在までおよそ120年の現代心理学の歴史は、「こころ」という多義的で曖昧な対象をどの様に捉えるかということに腐心してきた足跡であるといえる。このような先達の努力を振り返ることは、真の意味で心理学の理解を深めることになる。 本講義は、心理学の歴史をたどりながら、現代心理学の課題を理解するための枠組みを提示する。また、教室で心理学の実験を行い、受講者が被験者となることで、心理学のより深い理解を促進させる。	【講義計画】 前期では、まず、心理学の歴史を振り返り、現代心理学の課題を提示する。続いて、心理学の各領域の課題を網羅的に眺めてみる。取り上げる領域は、行動・学習、動機づけ・情動、知覚・認知、パーソナリティである。 後期では、心理学の領域のうち、学習の問題に焦点を当て、「学習の原理」が我々の日常場面の様々な行動にどの様に適用出来るのかを考える。また、名作映画のなかに現れる心理学の問題を取り上げて題材としたい。取り上げる映画は、以下のものである。 「時計じかけのオレンジ」(1971年)、「オズの魔法使い」(1939年)、「羊たちの沈黙」(1991年)、「2001年宇宙の旅」(1968年)、「心の旅路」(1942年) 各自レンタルビデオ等で見ておくこと。			
【成績評価の方法】 成績評価は、講義中に行う数回の小テストと学年末試験による。	【参考文献】 心理学事典 平凡社 現代基礎心理学全12巻 東京大学出版会 行動心理ハンドブック 培風館 心理学双書全10巻 有斐閣 「メイザーの学習と行動」二瓶社			
【教科書】 糸魚川春木編「心理学の基礎」（前期）有斐閣 佐藤方哉 「行動理論への招待」（後期）大修館				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	05 06	通 期 通 期	4単位 4単位	加 納 真 美
〔講義概要・学習目標〕 発達心理学にはじめて触れる人のために、基本的なテーマと考え方を紹介する。ヒトが人となるために、こどもが発達することの意味を探るために、身近な問題、現実社会、文化・歴史のなかの人間を対象として、生涯を見通す視点から探求していきたい。講義では、最近の研究結果を吟味しながらも、狭く限定した事象だけに焦点づけるのではなく、受講生が現実生活を反映した身近な問題として考察できるように心がけたい。		〔講義計画〕 <前期> I 発達心理学の歴史と方法 1. 発達心理学の起源 2. 発達心理学における研究方法 II 乳児期 3. 出生前、新生児期の発達 4. 乳児期における知覚発達 5. 乳児期における運動発達 6. ピアジェ理論とその後 III 幼児期 7. 幼児期における認知の発達 <後期> III 幼児期 8. シンボルの出現 9. 象徴的な表象（遊びと描画） 10. 言語と思考 IV 児童期 11. 児童期における認知発達 12. 学校教育の影響 V 青年期 13. 青年期 14. 成人期 15. 養護性一親となること		
〔成績評価の方法〕 前期、後期各1回づつ計2回の定期テスト 小テストまたはレポート		〔参考文献〕 柏木恵子 他（共著）『発達心理学への招待』（ミネルヴァ書房） 柏木恵子（著）『こどもの発達、学習、社会化』（有斐閣選書） ハス・アイトツク（著）、田村浩（訳）『マインドウォッチング人間行動学』（新潮選書） 佐藤達哉（著）『知能指数』（講談社現代新書）		
〔教科書〕 ジョージ・ハタワース（著）、村井潤一（監訳）『発達心理学の基本を学ぶ』（ミネルヴァ書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
有限数学 (旧数学Ⅰ)	01	通 期	4単位	後 藤 邦 夫
〔講義概要・学習目標〕 「有限数学」は、有限個の記号あるいは数値に、有限回の加減乗除の演算をほとんどすることで成り立つ。ひとつひとつの演算は小学校で学んだ算数とほとんど変わらない。従来、それで少し高級な問題を扱おうとすると、計算の過程が複雑で面倒になる。そこで、人々は楽な方法を求めて「高級な数学」を考え出して使った。ところが、面倒を厭わず単調な計算の繰り返しを早く正確にやってくれるコンピュータが出現したおかげで、小学校的数学を改良した「有限数学」でも、かなり高度な問題を扱えるようになった。そのような数学を学ぶのがこの授業の目標である。それによって、ノーベル賞の対象になったような数理的な社会科学や、ゲーム理論のような今世紀最大の数学的成果のひとつにも接近できる。また、このような数学は構造が単純であるため、「数学と言語」、「数学と論理」など、基本的な問題を学ぶのにも適している。授業全体を通じて、諸君の計算力の向上と共に、そのような基本的問題に対する認識の深化を期待する。		〔講義計画〕 前期： 数学の基礎と線形代数の初歩 (1) 集合、群、体、論理、確率など、数学における基礎的な概念を、有限の範囲の平易な例によって順番に導入して行く。 (2) その後で、簡単な行列の計算法など、有限数学の中心ともいえるべき「線形代数」の入門部分を学ぶ。 後期： 線形代数の応用 (1) グラフ理論、ゲーム理論、マルコフ連鎖、レオンチェフ・モデルなどを問題を易しい事例によって学ぶ。 (2) 学習の進捗状況によっては、数式処理言語マセマチカを用いて、コンピュータによる解き方を学ぶ。 (3) さらに学習が順調に進めば、簡単な群論とその応用問題を解説する。		
〔成績評価の方法〕 数学は「言葉」に似ている。言葉を学んで易しい会話も出来ないのでは困ると同様、数学を学んだら計算が出来なければならない。前期と後期の終わりの試験では、易しい問題を沢山解いてもらって諸君の「腕の力」の向上の程度を評価したい。		〔参考文献〕 ローレス、アントン「やさしい線形代数」（現代数学社） 古谷茂「行列と行列式」（培風館） 二階堂副包「経済のための線形数学」（培風館）		
〔教科書〕 前期：使用しない。 後期：ローレス、アントン「やさしい線形代数の応用」（現代数学社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
有限数学 (旧数学I)	02	通期	4単位	藤間真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だという印象を持っている人も多いと思います。</p> <p>ところが、歴史的には、数学は、無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に合意に達するために、筋道立てて議論を進めることや定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。</p> <p>本講義の目的は、そのような側面、すなわち、理性的に理解を進め、他人と合意に達するための道具としての数学に光を当てることにあります。</p> <p>まず、筋道をたてて考えたり表現たりすることの基礎付けである論理学の基礎を扱います。</p> <p>続いて現代数学の基本的道具ともいえる集合論の基礎を扱います。</p> <p>後期はいくつかの数をまとめて扱うために、普通の数の概念を拡張する、という視点からベクトルと行列を扱います。</p> <p>高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあるでしょうが、まったく新しい切り口で扱います。</p> <p>なお、連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意してください。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理の基礎 ・集合論の基礎 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数ベクトルについて ・行列の基礎 ・応用 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>細井勉著、新曜社、「教養の数学」</p> <p>大村平著、日科技連出版社、「論理と集合のはなし」</p> <p>大村平著、日科技連出版社、「行列とベクトルのはなし」</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
解析学 (旧数学II)		通期	4単位	藤間真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人も多いと思います。</p> <p>ところが、歴史的には、数学は、無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に合意に達するために、筋道立てて議論を進めることや定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。</p> <p>本講義の第一の目的は、変化を定量的に扱うための学問である微分積分学の初歩を伝授することです。</p> <p>第二の目的は、数学を扱う数式処理ソフトウェアの使用法に慣れることにより、実際に数学的知識を利用する素地を作ることです。</p> <p>高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあるでしょうが、まったく新しい切り口で扱います。</p> <p>なお、連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意してください。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Macintoshの初歩 ・Mathematicaの初歩 ・関数とは ・関数の実例 ・極限とは ・微分とは <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・微分とは(承前) ・積分とは ・応用 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>遠山啓 著 数学入門(下) 岩波新書</p>			
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
統計学		通 期	4 単位	井 上 勤
[講義概要・学習目標] 今年度開講する統計学は高校の「数学I」の知識だけで学習できるよう心がけていきたい 統計学の社会での必要性はコンピュータの発達と共に様変わりしているのは事実であるが授業での計算は電卓(講義では必修)を駆使できれば十分である 今まで理工系の科目と思われていたが文科系学生にとってもその修得は不可欠である 自分の頭で考え、手を動かす意欲的な学生の受講であってほしい。そうすれば自然に理解も深まり、興味も湧いてくるものである		[講義計画] 第I部 確率 第II部 統計 使用する教科書は上記の確率、統計それぞれ15章計30章に分かれている 1回の講義で1,2章ずつ選択を(ながら)進めていく つけて進めたい 重点的には I. 確率とは、確率分布(二項分布, Poisson分布, 正規分布) II. 資料の整理、母集団と標本、推定、検定		
[成績評価の方法] 成績評価の主資料は前期(7月)、後期(1月)試験であるが、授業の出席状況、演習も加味する。またレポートを課すこともある		[参考文献] と取扱う		
[教科書] 森本宏明 大橋 守(共著) 「これならわかる 確率・統計セミナー」(学術図書出版社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
物理学		通 期	4 単位	桑 原 雅 子
[講義概要・学習目標] 物理学はものごとを四角四面につきつめて考える学問である。「あいまいさ」を美德とする文化とは大きなへだたりがある。いさかとりつきにくいのはそのためである。しかし、なにごともしつちりと筋道をたてて考えることになれると、俄然おもしろくなる。物理学の魅力をわかってもらうのが、この講義の第1の目標である。とはいえ、見晴らしのよい山頂にヘリコプターで着地するわけにはいかない。ふもとから一步一步すすむ以外に方法はない。 第2の目標は、物理学と社会の関係を考察するに必要な基礎知識を養うことである。科学技術時代といわれるこんにち、物理学の成果は核兵器、原発からハイテク機器にいたるまで多様に利用され、人間生活に大きな影響をおよぼしている。これらの問題について、専門家にたいして対等に発言するための基礎づくりをめざす。		[講義計画] <前期> 序論 極微の世界から宇宙の果てまで 1. 現代物理学の起源：運動の記述と力の法則—力学的世界像の形成、熱とはなにか—複雑系としてのマクロ世界 2. 究極の物質構造：原子の構造、原子核と核エネルギー、素粒子の世界 <後期> 3. 宇宙論と素粒子物理学：相対性理論と宇宙モデル、膨張宇宙、宇宙創造と素粒子の統一理論 4. 物理学と社会：巨大科学としての高エネルギー物理学のゆくえ、西欧文化としての物理学を学ぶ意味		
[成績評価の方法] 前期末および後期末試験。 レポートを課し評価の対象とする場合もある。		[参考文献] 講義中に指示する。		
[教科書] 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生物学		通期	4 単位	井田和子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>環境問題について、生物学（生態学）の立場から概説する。必要に応じて環境ビデオを見る。</p> <p>はじめに、生物が地球上に誕生して以来、どのような法則の中で生きてきたか、自然システムの普遍的法則性を理解し、生きものとそれを取り巻く環境との関係を把握する。また、人間（ヒト）も生物の一種であり、生物の持つ共通の特性から逃れることは出来ないことを理解する。</p> <p>生物の相互作用／生態系／気候と植生／生態的最適域／限定要因の最小率／許容限界／生物の生存戦略／食物連鎖と生物濃縮／生化学サイクル…など。</p> <p>そして、前期は身近な地域の環境問題をのべる。</p> <p>後期は、地球規模の環境問題が、身近な地域の環境問題の広域化と時間の経過ともなう積み重ねの中で、顕在化して来たことを知り、解決策を考える。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前期>身近な地域の環境問題 水：緑のダム－水源林－、都市に水をためる、都市河川の汚濁 土壌：都市土壌の特徴、土壌汚染 大気：環境大気の汚染、室内空気の汚染、汚染防止対策 農薬やダイオキシンなどの有機塩素系化合物の毒</p> <p><後期>地球規模の環境問題 オゾン層の破壊、地球の温暖化、酸性雨と環境の酸性化、熱帯林の減少、生物多様性の減少、砂漠化の現状と諸問題、海洋汚染、ヒトの生活における価値観の転換</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期と後期の最後の講義時にテストをおこなう。また、講義の途中で、ビデオを見ることもあり、これの要点や感想を提出してもらう。これも評価に含める。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>井田和子（著）「身近な地域と地球規模の環境問題」（生協で印刷、販売される。）</p>				

<E・S・B生対象>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋文学		通期	4 単位	赤瀬雅子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>世界の文学のなかで、ひとつの大きな地位を占める西洋文学の特質とは何かを考察するには、やはり古典からみなければならぬ。一々の古典の概略を見るのみではなく、少しでも原典に触れて考察する。</p> <p>そのようにして学習する過程から、人類が文学作品に託した理想も、数多くのノン・フィクションの優れた業績が蓄積されているのにも関わらず、何故文学作品が存在するのかということの意味も理解されてくる。</p> <p>わが国における西洋の文学への関心は、従来、二三の国に限定されがちであったが、その全体を見る必要がある。さらに重要なことは、各国相互の文学の影響関係の考察である。これを見ることによって、基礎の確固とした文化論の領域にも踏み込むことができよう。</p> <p>限られた時間の中ではあるが、19世紀、20世紀の文学も、概説のみではなく、具体的にそのいくつかのものに触れてみたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>先ず、文学とは何か、何故人間にとって必要なものなのかを、西洋の古典を通して具体的に学ぶ。テキストの一節を味読する方法の意義をも考える。次いで何よりも大切な、西欧各国間の文学の相互の影響関係に配慮しながら、どのように、各世紀の特質を持ってきたか、またそれはどこへ向かおうとしているのかを考える。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>大塚幸男著『ヨーロッパ文学主潮史』（白水社）</p>		ジョン・メーシ著 大谷利彦訳『世界文学史物語』（角川文庫）		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋社会史 (旧 社会科学概論Ⅰ)		後期集中	4単位	種田 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義は社会科学の、なかでも社会史を中心に、阿部謹也氏の歴史研究を解説し、現代世界に生きる私たちが抱える諸問題を読み解くための基本認識、あるいはそのためのヒントを探ることを目的としている。</p> <p>社会科学とは、政治学・経済学・社会学などを基軸として、現実の社会・世界を解剖し分析する学問の総称である。日本においても、また世界においても1970年代からさまざまな「社会史」が巷間に溢れ出てきている。社会科学の中の社会史は、総合的な視角から人間と人間集団(地域、民俗、社会…)を「全体」として捉えていくべきものである。狭義としての、人間活動の特定領域を対象とする部分史ではなく、「社会(全体)史」として広義に考えてゆきたい。</p> <p>阿部社会史の方法は、人と人/人とモノとの「関係」(絆・交換・贈与…)をドイツ中世からさぐり、日本との比較を試みるものである。読み解くなかから「生きる」「生活する」ことの意味を考え、学問の厳しさと楽しさを味わってほしい。知的好奇心旺盛な、積極的に質問・疑問を投げかけてくれる受講生の参加を期待している。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>3分の2 ドイツ中世社会史の諸問題を通して、現代につながり現代と交差するものはなにかを考え講義解説していく。 U・エーコ「薔薇の名前」のVTRをみて、修道院について概観する。</p> <p>3分の1 ドイツ中世都市フランクフルトについての研究(都市史)の概要について解説講義する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・平常(小テスト) 10+20% 欠席5回は受験資格なし 試験(講義最終日) 70%</p>		<p>[参考文献]</p> <p>講義中に提示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>阿部謹也『社会史とは何か』筑摩書房、1989年 小倉欣一・大澤武男『都市フランクフルトの歴史』中公新書、1994年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																										
教育原理Ⅰ・Ⅱ (旧教育学) 教育原理Ⅰ・Ⅱ (旧教育学)	01 02	前・後期 前・後期	4単位 4単位	竹中暉雄																										
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育学とは何も、教師や教職志望者のためにのみあるのではない。子どもの成長と能力の発達に影響を与えるのは、決して学校の教師だけではないからである。将来の親、あるいは社会人として、またこれまで教育を受けてきた体験者として、教育について客観的に考えるための素材を提供する。</p> <p>前期には、なぜ人間だけが長期にわたる教育を必要とするのか、そしてなぜそのことが可能なのかを、脳科学の助けを借りて考える。その次には、どのような人間をつくるのかという教育理念・目的が問題となる。その時代背景との関係のなかで歴史の変遷を追い、現代の私たちに問われている教育目的について考察する。</p> <p>後期には、本来は私的で個人的なものでありながら、現実には法令に基づき国家的な制度として行なわれる学校教育が孕んでいる諸問題について考える。現代のさまざまな教育問題の根源はおもにこの矛盾から派生してきている。制度的な教育にはそれなりの利点があるけれども、ともすれば個人の自由や自主性が無視される側面も存在するからである。</p> <p>身近な具体例をあげて講義するので、質問・意見があればどんどん出して下さい。質問票およびE-mail (takenaka@andrew.ac.jp) の形で受け付けています。</p>		<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>前期</td> <td>後期</td> </tr> <tr> <td>1 教育の定義</td> <td>1 義務教育と登校拒否</td> </tr> <tr> <td>2 教育必要性と教育可能性</td> <td>2 家庭での就学</td> </tr> <tr> <td>3 我・汝関係と教育関係</td> <td>3 進級・卒業の問題</td> </tr> <tr> <td>4 教師と教育的タクト</td> <td>4 学習指導要領の問題</td> </tr> <tr> <td>5 人間の脳の特殊性</td> <td>5 指導要録の問題</td> </tr> <tr> <td>6 遺伝と環境の問題</td> <td>6 いじめの定義と構造</td> </tr> <tr> <td>7 生涯学習の必要性と可能性</td> <td>7 裁判例と克服策</td> </tr> <tr> <td>8 近代教育論の始まり</td> <td>8 教職の性質</td> </tr> <tr> <td>9 「合自然」の教育論</td> <td>9 研修義務</td> </tr> <tr> <td>10 「反合自然」の教育論</td> <td>10 経済的待遇</td> </tr> <tr> <td>11 児童中心主義の意義</td> <td>11 部活動指導</td> </tr> <tr> <td>12 実存主義からの問題提起</td> <td>12 教員定数</td> </tr> <tr> <td>13 「個」か「集団」か</td> <td>13 教師と体罰</td> </tr> </table>	前期	後期	1 教育の定義	1 義務教育と登校拒否	2 教育必要性と教育可能性	2 家庭での就学	3 我・汝関係と教育関係	3 進級・卒業の問題	4 教師と教育的タクト	4 学習指導要領の問題	5 人間の脳の特殊性	5 指導要録の問題	6 遺伝と環境の問題	6 いじめの定義と構造	7 生涯学習の必要性と可能性	7 裁判例と克服策	8 近代教育論の始まり	8 教職の性質	9 「合自然」の教育論	9 研修義務	10 「反合自然」の教育論	10 経済的待遇	11 児童中心主義の意義	11 部活動指導	12 実存主義からの問題提起	12 教員定数	13 「個」か「集団」か	13 教師と体罰
前期	後期																													
1 教育の定義	1 義務教育と登校拒否																													
2 教育必要性と教育可能性	2 家庭での就学																													
3 我・汝関係と教育関係	3 進級・卒業の問題																													
4 教師と教育的タクト	4 学習指導要領の問題																													
5 人間の脳の特殊性	5 指導要録の問題																													
6 遺伝と環境の問題	6 いじめの定義と構造																													
7 生涯学習の必要性と可能性	7 裁判例と克服策																													
8 近代教育論の始まり	8 教職の性質																													
9 「合自然」の教育論	9 研修義務																													
10 「反合自然」の教育論	10 経済的待遇																													
11 児童中心主義の意義	11 部活動指導																													
12 実存主義からの問題提起	12 教員定数																													
13 「個」か「集団」か	13 教師と体罰																													
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末および後期末の2度の論述試験による。Ⅰ、Ⅱを同一年度に合格しないと単位認定できない。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>テキストに記載されている引用文献・参考文献</p>																												
<p>[教科書]</p> <p>竹中・中山・宮野・徳永(共著)『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版 1997年</p>																														

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館通論 図書館資料論 (旧図書館概論)		前 期 後 期	4 単位	志保田 務
[講義概要・学習目標] 現代社会における図書館の全体像及び意義について概説する。特にコミュニケーション、情報の伝達にかかわる図書館の役割、生涯学習ステージにおけるその働きについて述べる。図書館・情報学についても触れる。 図書館を構成する要素のうち、最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。特に資料の電子化に注目し、図書館資料の中にしめるこの位置について考究する。	[講義計画] 1 図書館とは：定義 2 図書館と社会 3 図書館に関する法規 4 図書館の歴史 5 図書館の種類：館種 6 公共図書館 7 大学図書館・学校図書館 8 専門図書館・国立図書館 9 図書館業務 10 図書館経営 11 図書館協力 12 図書館・情報のネットワーク 13. 図書館資料論：「図書」と「資料」 14. 図書館資料の種類 15. 資料の生産と流通 16. 資料の蓄積と提供 17. 資料の検索 IR 18. 資料の選択 19. 情報化：「資料」から「情報」へ 20. 電子化資料 (on desk) 21. 情報電子化 (on-line) 22. インターネット 23. 著作権、公貸権 24. まとめ			
[成績評価の方法] テスト	[参考文献] 前島重方, 志保田務 (共編) 「図書館概論」 (橋村房)			
[教科書] 藤野幸雄 (ほか著) 『図書館情報学入門』 (有斐閣)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代思想		通 期	4 単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標] 「20世紀は戦争と革命の世紀である」とはすでに今世紀半ばに言われたことである。あと3年足らずで21世紀なろうとする今日から振り返っても、この世紀が様々な顔を持っていることが明らかになる。戦争・革命・冷戦・技術革新・大衆社会・魔女狩りなど、20世紀を形容する言葉は様々であり、とても一言で表現できるものではない。社会が多様な姿をしていれば、そこから生まれる思想もまた多様な姿をとるようになる。 この講義では、多様な姿を見せる20世紀の思想を概観し、その歴史のあるいは社会的な意味を考える。対象とする地域は、担当者の専門上、主としてヨーロッパとするが、必要に応じて比較思想的な分析を取り入れたいと考えている。	[講義計画] (前期) 1、ヨーロッパ世紀末 ～19世紀末の思想状況 2、ヨーロッパ知識人の危機意識 ① P・ヴァレリーにおけるヨーロッパの危機 ② E・クルツィウスにおけるドイツ精神の危機 3、革命の思想 (後期) 4、ナチズムとユダヤ人問題 ～知識人とナチ 5、戦後処理をめぐって ～「ナチズムは特殊か否か」の論争 6、比較思想の観点から ～同時代人として20世紀思想をどう考えるか			
[成績評価の方法] 定期試験によって行うが、ある程度の水準の答案を要求する。	[参考文献] 授業中に指示する。			
[教科書] 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代思想史		通 期	4 単位	松 浦 玲
[講義概要・学習目標] 前近代の思想から近代思想に頭を切替えなければならない激動期に生きた人物群の中から勝海舟を取上げる。ペリー来航のとき31歳、幕府倒壊の戊辰戦争のとき46歳だった海舟は、明治32年77歳まで生きて、福沢諭吉とは違うタイプの近代思想を語り続けた。教科書指定はないが月刊誌『論座』に勝海舟評伝「遙かな海へ」を連載中なので、講義に並行して読むと理解が進む。	[講義計画] 幕府を内側から倒した海舟が、薩長藩閥の支配する明治政府をどのように見たか。西南戦争で敗死する西郷隆盛と親友であることを強調し、西郷は征韓論ではないと言い続ける独特のアジア主義。その時期を追っての展開を探求する。			
[成績評価の方法] 受講生が多ければ試験、少なければレポート	[参考文献] 講義の進行に従って挙げていく。			
[教科書] 使わない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スポーツ文化論 (旧身体文化論)		通 期	4 単位	松 浦 道 夫
[講義概要・学習目標] まず、現代社会の特徴と体育・スポーツの発展、関係を概観します。そして背景の思想・精神・文化を知り、スポーツとの関連を考察します。いいかえれば、スポーツ文化論を通して、集団としての人間、社会を理解することをねらっています。	[講義計画] <前期> 1. 現代の体育・スポーツ 2. 近代イギリススポーツと社交の精神 3. イギリスのキャンブル精神とスポーツ <後期> 4. アメリカスポーツとメンバーチェンジの思想 5. 近代日本のスポーツと勝敗感 6. 国際化と日本的スポーツの変化			
[成績評価の方法] 適宜エッセイを課し、学年末テストと合わせて評価します。ただし、受講生が多い場合は変更することもあります。	[参考文献] 授業の進行に合わせて知らせます。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化論		通 期	4 単位	柳 父 章
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会科学理論をとり入れた比較文化論の重点をおく。又第1日本の文化を考へおきながら異文化を見つめる。 新しい人の外国旅行の経験諸やロビテアを多くまじえつくり。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 日本文化を 外側から見た 代表的理論の紹介。 『菊と刀』 『昆蟲の構造』 騎馬民族説など。 <後期A> 現代アジアの動きを比較文化論的に考へる。 西洋の初期文化の展望を考へる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席はとらぬ。しかし出席しないテストは厳しく合格できない。おろす。 前期・後期末のテストあり。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>毎回 1313を文献を紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>柳父章著『一語の辞典 文化』 三省堂 1000円</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コミュニケーション論		通 期	4 単位	西川一廉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間は一人では生きてゆけない。複数の人が寄り合ってさまざまな集団、社会を構成し、その中で生きている。人間とはまさに「人と人の関係」の中に生きる存在である。そこで人と人をつなぐもの、それがコミュニケーションである。しかしコミュニケーションについて考えるには、他者より先に、まずコミュニケーションをする自分が自分をどのように認知しているかを知らなければならない。その上で、他者との関係が浮上する。またコミュニケーションはことばに限らない。むしろ身ぶり、手振りから始まって顔面表情など、いわゆるノンバーバル・コミュニケーションの方がよく用いられる。さらに話すこともさることながら、聴くことの重要性を知らなければならない。 当講義では、個人と、個人から小集団までの対人コミュニケーションについて心理学の立場から考える。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. 前期 自己概念と自己開示、対人相互作用や対人魅力など、日常の具体的出来事を取り上げながら、あるいは実習をまじえながら、コミュニケーションの基本について考える。 II. 後期 パーバル/ノンバーバル・コミュニケーションや態度変容(説得)、あるいは小集団における人間関係のダイナミクスなどについて考える</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績評価は期末試験による。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>J. B. ベンジャミン(著)『コミュニケーション』 (二瓶社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民俗学		通 期	4 単位	橋 内 武
[講義概要・学習目標] <p>民俗学は庶民が生活の中で伝承してきた文化を観察・記録する中から成立した学問である。その対象範囲は生活文化全般にわたるが、本講では、前期に人生儀礼・年中行事・俗信、後期に口承文芸（とくに昔話）を取り上げる。これらの文化事象を扱いながら、民俗の見方を手に入れることが学習目標となる。</p>	[講義計画] <前期> 1. 民俗学とは何か 2. 人生儀礼 3. 年中行事 4. 俗信 <後期> 1. 口承文芸とな何か 2. 昔話の分類（むかし語り、動物昔話、笑話、形式話） 3. 昔話研究法（起源・歴史・構造・機能）			
[成績評価の方法] <p>原則として試験による。但し、聞き書きまたは観察に基づくレポートを夏休み後に提出するとボーナス点が与えられる。</p>	[参考文献] <p>赤田光男ほか編 『講座 日本の民俗学』 雄山閣</p> <p>稲田浩二ほか編 『日本昔話通観』 同朋社</p>			
[教科書] <p>上野和男ほか編 『新版 民俗調査ハンドブック』 吉川弘文館 稲田浩二・稲田和子編著 『日本昔話百選』 講談社文庫</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
憲法		通 期	4 単位	前 田 徹 生
[講義概要・学習目標] <p>「憲法」については、中学や高校で既に習ったという方が多いはずである。そこで習う憲法は、多くの場合制度の説明にとどまっている。大学の講義での憲法は、制度の枠組みの解説ではなく、その制度の由来や沿革、その趣旨や目的および機能、それに関する諸説の比較検討、対立する諸利益や価値との比較衡量により、一定の結論を導き出す論理的思考能力を養うことにある。</p> <p>憲法学も次第に専門化や細分化がなされ、今日憲法的全領域を一年間で講義をすることは難しくなっている。そうした理由から、本年度は特に総論、基本的人権と、時間が許せば違憲審査制を取り上げることとした。</p>	[講義計画] ① 憲法ガイダンス・憲法規範の特徴 ② 日本国憲法成立史 ③ 第九条の起源 ④ 第九条と日米安保条約 ⑤ 基本的人権の享有主体 ⑥ 基本的人権の私人間効力 ⑦ 個人の尊重と幸福追求権 ⑧ 法の下の平等 ⑩ 思想・良心の自由 ⑪ 学問の自由 ⑫ 信教の自由・政教分離の原則 ⑬ 表現の自由 ⑭ 職業選択の自由 ⑮ 被疑者・被告人の権利 ⑯ 生存権 ⑰ 裁判制度 ⑱ 違憲審査制			
[成績評価の方法] <p>試験の成績を重視するが、出席状況や受講態度を考慮しながら、適宜それらを加味して評価する場合もある。</p>	[参考文献] 佐藤 功『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房 樋口陽一『憲法入門』勁草書房 芦部信喜『憲法』岩波書店 佐藤幸治『憲法』（第三版）青林書院			
[教科書] 粕谷友介・向井久了編『憲法』青林書院				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（韓国・朝鮮文化） （旧韓国・朝鮮文化研究Ⅱ）		通 期	4 単位	徳成外志子
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>朝鮮半島の社会と人々を縦（歴史）と横（現在）から理解する。 朝鮮半島の国と人々は日本に最も近い隣国、隣人であるが、韓国・朝鮮、朝鮮人と日本及び日本人は、似て非なるところが多い。例えば、同じく儒教と言っても、日本では忠を重視するのに対して朝鮮では孝が重視され、日本では武士を指すが、朝鮮では儒者を意味した。親族制度も、日本は家制度であるが朝鮮半島は宗族制度であり、朝鮮の宗族制度は中国の宗族制度とも若干異なり身分的性格が加味されている。同じく四季があると言っても、気候風土はやはり違いがあり、従って衣食住などの生活様式にも特色が生じている。歴史的にも、朝鮮は中国大陸と陸続きで大陸勢力の圧迫・影響をもろに受けたのに対し、日本は海を隔てていて相対的に独自性を保つことができた。朝鮮半島は日本や中国とは異なる独自の文化と歴史を持ち、その異なるところがおもしろい。ところで日本では教育の中でも朝鮮半島の歴史や文化については殆ど教えられず、せいぜい断片的な日朝関係の理解にとどまっている。日本的な価値観、尺度にのみ依拠して接すると、誤解、摩擦のもととなる。一方韓国・朝鮮の日本理解はどうだったのだろうか。朝鮮と日本の相互認識についても歴史的に検討してみたい。授業はビデオなどの視聴覚教材を大いに活用し、朝鮮文化に親しめるようにしたい。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>前期：現在の朝鮮半島の社会と文化を幅広く概観し、その特色を知る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地理、気候、風土 2. 国号考 3. 言葉と文字 4. 家族・親族制度と姓氏 5. 人間関係 6. 生活文化 7. 宗教と信仰 8. 芸能、芸術、文化 <p>後期：朝鮮半島の歴史の概略を知り、日朝の相互関係・相互認識を歴史的に考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古代の朝鮮史と日朝関係、日朝の相互認識 2. 中世の朝鮮史と日朝関係、日朝の相互認識 3. 近代の朝鮮史と日朝関係、日朝の相互認識 4. 解放後（1945年以後）の朝鮮史と日朝関係、日朝の相互認識 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席及び普段の授業課題、学年末レポートを総合的に評価する。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山本剛士編『新版 韓国入門』三省堂選書、1992。 ・金両其監修『（読んで旅する世界の歴史と文化）韓国』新潮社、1993。 ・朝鮮史研究会編『朝鮮の歴史』三省堂、1995。 ・鄭大均『韓国のイメージ 一戦後日本人の隣国観』中公新書、1995。 ・上田正昭、姜在彦編『日本と朝鮮の二千年』大阪書籍、1985。 ・『朝鮮を知る事典』平凡社、1986。 <p>その他、授業で適宜紹介する。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>伊藤亜人『（暮らしがわかるアジア読本）韓国』河出書房新社、1996。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学概論		通 期	4 単位	和 栗 了
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>文学とは何かという問いに対してひとつの解答を出すために、作品をこまかく、正確に、かつ想像力豊かに読む方法を講義する。文学とは言語による表現に依存しながらも言語では表現できないものを伝えようとするものである。この決定的な逆説のなかで読む行為をしなければならない読者には、必然的に読む技術が求められる。すぐれた文学作品とは個々の真理を表現するために最良の方法を選択したものだとなれば、表現されていないものを求めて言語表現を詳細に検討することが真理探究への道である。作者の選んだ言語表現を前にして、沈黙の言葉を読み取る方法を伝える。</p> <p>この授業の目的は、文学作品をどのように読むべきか、その方法を各自で発見することである。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>第1回目の授業で詳しいシラバス等を配布します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>レポートによる。</p>	<p>〔参考文献〕</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>第1回目の授業で指示します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
聖書研究		通 期	4 単位	滝 澤 武 人
[講義概要・学習目標] 文字通り『聖書』を読んで研究することがこの講義の目標である。『聖書』には『旧約聖書』（39巻）と『新約聖書』（27巻）の合計66巻のさまざまな文書が含まれている。それらは古代ユダヤ民族が残した人類全体の大きな知的遺産・古典であり、今日においてもなお文学・歴史・思想・宗教など人間の根本問題に対して新鮮な光を投げかけている。今年度の講義は、前期に『旧約聖書』（特に『創世記』）、そして後期に『新約聖書』（特に『マルコ福音書』）を、「人間の生きざま」に焦点をあてながら読みすすめる予定である。聖書に登場するさまざまな人間の生きざまは、キリスト教やユダヤ教の枠を越えて、現代世界に生きる多くの人々に大きな感動を与えることになるであろう。もちろん、大学という場においては、学問的な研究成果を土台として『聖書』を読むことになる。真面目な学生諸君の主体的な受講を期待している。なお教科書として指定した『聖書』必ず毎時間持参すること。	[講義計画] 前期（旧約聖書より） アダムとエヴァ、アブラハム、ヤコブ、モーセ、ダビデ等 後期（新約聖書より） 主としてイエスについて およびイエスをめぐる人びとについて			
[成績評価の方法] 試験（前期・後期）、レポート、感想文、受講姿勢などを総合的に評価する。	[参考文献] その都度指示する。			
[教科書] 新共同訳『聖書』（日本聖書協会）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学社会学 (旧自然科学概論)		通 期	4 単位	後 藤 邦 夫
[講義概要・学習目標] 狭義の科学社会学はさまざまな科学者集団を対象とする社会学的研究であり、いわゆる知識社会学の系譜に属する。しかし、この授業では科学を文化の一形態と見なし、その多様な社会的側面を扱う広義の科学社会学を講義する。また、講義者は「科学」と「技術」を一体のものとしてとらえる立場である。したがって、講義内容を「科学技術の社会的研究」としてもよい。かつて、科学技術は少数の研究者の個人的活動によって担われていたが、ある時期から多様な社会システムの活動の所産となった。このことが明確に認識されるようになった1930年代に、広義・狭義ともに科学社会学的研究がスタートした。しかし、その本格的展開は、第二次大戦後、とくに1970年代以降である。核問題、環境問題等を通じて、科学技術の社会的意味が問われ、「科学的真理」や「技術進歩」に対しても根本的な検討が必要になったからである。それらの現代的トピックも出来るかぎり扱う。	[講義計画] 前期：科学社会学、すなわち科学技術の社会的研究の系譜と方法 1930年代のマートン、パナール、マルクーゼ、から今日の社会的構成主義にいたる研究の流れを追いながら、主な論点と方法を講義する。 後期：現代の科学技術の科学社会学的研究 主に、第二次大戦後のさまざまな話題を扱う。			
[成績評価の方法] 1) 講義した内容についての試験を行う。 2) レポートを課し、その内容をも若干考慮する。	[参考文献] 受講者に対するシラバスのなかで示す。			
[教科書] 使用しない。必要に応じてプリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済数学		通期	4単位	安藤 洋美
[講義概要・学習目標] 経済学に数学が使われたのは、とても古く、特に19世紀の中頃のクルーノーによって『富の理論の数学的原理に関する研究』が出版された時をもって発祥とする。経済学の内容の幾つかを、日常言語ではなく簡潔な表現方法として数学を応用すること（言語として使うこと）；経済現象のモデルの分析と法則表現の手段として数学利用することを理解させたい。もっと端的に言えば、経済学とは条件付極値問題を解くことでもあることが理解できれば、この講義の目的は達成される。		[講義計画] 〈前期〉差分法、差分方程式を使う離散変量の経モデルの分析 〈後期〉微分法、微分方程式を使う連続変量経済モデルの分析		
[成績評価の方法] 前期、後期2回の試験と演習を主体にする講義なので、平常の課題解決力も加味して、評価する。		[参考文献]		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業技術論 (旧技術と生産過程)		通 期	4単位	並 川 宏 彦
[講義概要・学習目標] 技術の発展は、社会の発展を支える重要な役割を果たしている。産業技術論は、技術の歴史、現状、未来について、総合的に理解することを目的とする。本講義では、技術の発展の歴史、現状、未来について、総合的に理解することを目的とする。本講義では、技術の発展の歴史、現状、未来について、総合的に理解することを目的とする。		[講義計画] 第1章 産業技術の発展の歴史 第2章 産業技術の発展の現状 第3章 産業技術の発展の未来 第4章 産業技術の発展の政策 第5章 産業技術の発展の教育 第6章 産業技術の発展の国際化 第7章 産業技術の発展の倫理 第8章 産業技術の発展の環境 第9章 産業技術の発展の安全 第10章 産業技術の発展の健康		
[成績評価の方法] レポートの提出を課す。期末に試験をする。試験の点数とレポートの評価で成績をつける。		[参考文献] 最初の授業の日に、各章ごとの参考文献を示す。		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用II (旧電子計算機II)		通期	4 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。 コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何が出来るかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。</p> <p>履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい： ・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。 ・計算機センターの施設を用いた実習が主体となる。 ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。 コンピュータの経験を持たないものにとってはハードな講義となる。 ・実習主体の講義であり、自習も必要となる。 ・基本的には連絡は電子メールで行う。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前期> ・ホームページを作ってみる。 ・プレゼンテーション・ソフト ・unixの基礎 <後期> ・オブジェクト指向とJava</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末レポートを主に、平常成績を考慮し、総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>進行状況に応じて指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>進行状況に応じて指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人間工学概論		通期	4 単位	三戸 秀樹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間と機械のかかわりは古い。この人間と機械の関係から発生した人間工学に関する基礎的理解を深め、今後の人間と機械のあり方について言及する。近年の機械系、とくにコンピュータリゼーションの進歩にともなう、人間らしい“人間-機械”の関係が実現しつつある反面、労働場面では、非人間的な“人間-機械”の関係が観察される。この非人間的側面は、かつて労働にあった「働きがい」をも失わせる要素を有しはじめている。さらに、一部では産業ストレス時代ともいわれ、真に人間中心的な視点に基づいた人間工学導入が緊要である。</p> <p>単なる既存知識の習得に主眼をおくのではなく、働く人々の個々のおかれている状況・状態にたえず疑問を発しながら、「どうしてそうなのか」「どうすれば良くなるのか」を、人間工学的に考える姿勢を重視する。人間を中心にした視点から人間工学の基本を学びとって欲しい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前 期> (1)はじめに 人間工学の定義、労働態様の変化、 (2)人間特性 生体次元、感覚入力系、覚醒水準、生体リズム、反応特性、性差、疲労、蓄積性疲労、 <後 期> (3)人間と機械 マン・マシン・インタフェース、頰肩腕障害、振動障害、VDT作業、テクノストレス、 (4)応用人間工学 障害者、二次的障害、高齢化、安全人間工学、交通科学、 (5)労働の快適化 労働の人間化、ゆとり、</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テストとレポートを予定</p>		<p>[参考文献]</p> <p>労働と健康の科学研究会(編)「労働と健康の科学」(労働経済社) 三戸秀樹ほか(著)「安全の行動科学」(学文社) 千田忠男ほか(著)「労働科学論入門」(北大路書房)</p>		
<p>[教科書]</p> <p>横溝克己・小松原明哲(共著)「エンジニアのための人間工学(改訂)」(日本出版サービス)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学思想史		通期	4 単位	松永俊男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義では、科学とキリスト教の歴史的変遷を考察する。17世紀に成立した西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。科学と宗教の安定した関係は19世紀の前半まで続いたが、19世紀の中頃に科学と宗教の調和が崩れ、科学は宗教から分離していった。またこのころに、科学はキリスト教と闘争して発達したという歴史観が成立し、現在でも一般に広まっている。</p> <p>講義では、ガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを解明し、それにもかかわらず、なぜ科学と宗教の闘争史観が広まっているのかを考えていきたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コペルニクスはコペルニクスの転回をしていない 2. ガリレオ裁判の謎 3. ニュートンは錬金術師だった 4. 科学はキリスト教に奉仕するものだった 5. ヒュームとカントの科学論 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ノアの洪水神話と地質学 2. 『種の起源』は神学書である 3. 進化論はキリスト教に取り込まれた 4. 科学と宗教の闘争史観の成立 5. ホワイトヘッドの科学論 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>受講生は多くないと予想されるので、平常点のみで評価する予定。</p>		[参考文献]		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
<p>総合講座Ⅰ（神話と物語のディスクール）</p> <p>（旧総合講座Ⅱ－神話と物語のディスクール）</p>		後 期	2 単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>私たちは日々の生活の中で、それと意識せずに、ある特定のパターンに基づいた行動をする。物事を見たり、聞いたり、判断したりしながら日々の生活を営んでいるのだが、そこには自ずからなる「思考」の、もしくは「行動」のパターンが潜在している。普段は意識することのない、そうした「思考」や「行動」のパターンを、まずは自覚することから始めなければならない。そうした「思考」や「行動」のパターンは、しばしば「文化」とか「イデオロギー」とか呼ばれたりするのだが、そうした「文化」や「イデオロギー」に基づく個人や人の「思考」や「行動」のパターンには、なぜそうなのか、なぜそうした考え方や行動をするのかということについて説明する大きな物語>が、必ず付随している。その大きな物語>を、つまりはそれと意識されることなく神話化>された大きな物語>を白日の下にさらけ出す作業が次には行われるであろう。そしてこの大きな物語>に対して、どれだけ自分の個人的な小さな物語>を書き加えることができるか。それが本講義の到達目標であり、学習目標である。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>最初に<神話>と<物語>とはそれぞれ何か、その違いと共通点について、チーフである深澤が、数回にわたって講義する。これがいわゆる「総論」の部分に当たる。ついで個別の様々な事例に当たりながら、ゲスト講師による「各論」が展開する。個別の講義内容については、詳細なシラバス（講義計画書）を講義の始めの方で配布する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回出席を取るなのでその出席状況、及び学年末に試験を行い、総合的に評価する。</p>		[参考文献]		特に定めない。
[教科書]				特に定めない。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
総合講座Ⅰ（一神教の系譜） （旧総合講座Ⅳ―一神教の系譜）	01 02	前 期 9月集中	2単位 2単位	滝 澤 武 人
[講義概要・学習目標] 古代の西アジア（いわゆる中近東）においては、世界的な大宗教が数多く成立した。「旧約聖書」の流れの中からは、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教という宗教が生まれ、現代においてもなお世界中の多くの人々に有形・無形（意識的・無意識的）のきわめて大きな影響を与えつづけている。さらに紀元前7世紀頃に古代イランに誕生したゾロアスター教もまたきわめて重要な宗教である。 これら四つの宗教は、いずれも西アジアの砂漠的な風土の中から生まれた一神教の宗教である。この総合講座においては、それぞれの宗教の専門家である4人の講師がそれぞれの宗教に関する最低限のコンパクトな教養としての知識を授けることを目標とする。各宗教の創始者・教典・教義・歴史・現代的意義などをできるだけ簡潔に入門的に紹介する。日本人には余りなじみのない古代世界の宗教に関心の有する真面目な学生諸君の積極的な受講を期待している。	[講義計画] ゾロアスター教（3回） ユダヤ教（3回） キリスト教（3回） イスラム教（3回）			
[成績評価の方法] 試験、レポート、感想文、受講姿勢などを総合的に評価する。	[参考文献] 各講師がその都度指示する。			
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
総合講座Ⅰ（スポーツと社会） （旧総合講座Ⅲ―スポーツと社会）		前 期	2単位	松 浦 道 夫
[講義概要・学習目標] かつて、イギリスのスポーツ史家、ストラッドが「スポーツは社会の鏡である」と述べたように、スポーツは大きな社会現象となりました。マスコミで、スポーツニュースや番組のない日は皆無といって良いでしょう。現代はスポーツや芸能の世紀ともいえるほどになりました。そしてスポーツの人文・社会科学的分野での研究も盛んになってきました。そこでそれらの成果を踏まえて「スポーツと社会」の関係について「世界の主要国家単位」で、歴史的背景もあわせてながら考察し、論じます。	[講義計画] <前期> 世界の主要国家と日本のスポーツ事情について、12～13回の予定で講義します。 1回目の講義で各テーマ、担当者の紹介をしますので、注意してください。			
[成績評価の方法] テーマごとのエッセイと最終講義日のテストで評価します。ただし、受講生が多い場合は変更します。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
総合講座Ⅰ（スポーツをめぐる諸問題） （旧総合講座Ⅲースポーツをめぐる諸問題）		後 期	2 単位	松 浦 道 夫
[講義概要・学習目標] 前期の国家単位の問題に続いて、近代、現代を通してのスポーツの社会諸問題について、個々にテーマを設定して考察します。政治・経済・法律・教育・倫理・宗教・民族性・国民性・風土・気候・生活・文化・戦争・平和・人権など、スポーツに関連する社会科学的分野での問題は多様で多面的です。この意味で「スポーツと社会」について考察することは、人間集団について研究することにもなります。みなさんと共に「スポーツ学」「人間学」にアプローチしてみたいと思います。	[講義計画] <後期> 宗教・女性・子ども・障害者・学生・近代オリンピック・ワールドカップ・各種目リーグなどの諸問題をスポーツとのかかわりで論じます。 1 2 回の予定で講義します。 1 回目の講義で各テーマ、担当者の紹介をしますので、注意してください。			
[成績評価の方法] テーマごとのエッセイと最終講義日のテストで評価します。ただし、受講生が多い場合は変更します。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
総合講座Ⅱ（コスモロジーと文化） （旧総合講座Ⅰーコスモロジーと文化）		通 期	4 単位	後 藤 邦 夫
[講義概要・学習目標] コスモロジーは普通「宇宙論」と訳される。しかし、その原義（ギリシャ語）は「秩序」と「言葉・論理」の合成である。したがって、コスモロジーは、人間をふくむ世界を「秩序ある総体」として明晰に表現したものとみなすことが出来る。ここに、秩序の概念、総体なるものの意味、それらの明晰な表現などが問われることになる。それらは、人類のさまざまな「文化」に即して設定され、その核心をなすものである。古代オリエント、古代ギリシャ、古代中国、古代インド、キリスト教的西欧等の主要な伝統文化のみならず、西欧近代が拓いた「科学的宇宙論」においても同様である。いずれも、なにがしかの経験に立脚した個別的認識に基づいてはいるが、それぞれに世界の普遍的な質を文化に裏付けられた秩序において見い出そうとしたのである。この講座は世界に関するそのような認識について学ぶための入門である。	[講義計画] 授業計画（前期） 古代オリエント、古代ギリシャ、キリスト教を含むヘレニズム、古代中国、古代インド、等の文化とコスモロジーを扱う。 授業計画（後期） ヨーロッパの中世と近代の文化とコスモロジー、現代科学に基づくコスモロジーを扱った後、人間を含む世界の秩序構造に関する様々なモデルと思想について考える。			
[成績評価の方法] ほぼ、毎時間クイズを課し、全体の範囲に対して期末にテストを行なう。評価は基本的には期末テストによるが、毎回のクイズの成果はボーダーライン上において考慮されることがある。また、レポートの提出を求め、優れた内容のものがあれば評価に加える。	[参考文献] それぞれの問題について、おびたしい良書がある。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他はテーマごとに授業中に示す。			
[教科書] 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
総合講座Ⅱ（泉州の今昔） （旧総合講座Ⅱ－泉州の今昔）		通 期	4 単位	松 浦 玲
【講義概要・学習目標】 大学キャンパスのある和泉市は、和泉国すなわち「泉州」の中心地である。その「泉州」の歴史と現在、また将来の発展可能性を、地元の研究者・郷土史家、また本学教員のリレー講義で明らかにする。通年講義とする。	【講義計画】 10人を超える講師のリレーとなるが、おおまかには過去から現在へ、更に将来構想と、時間軸を追っていく。			
【成績評価の方法】 受講者が多ければ試験、少なければレポート。	【参考文献】 各講師がそれぞれ必要に応じて挙げる。			
【教科書】 使わない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記I	01	通 期	4 単位	河野 勉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも1年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表、損益計算書）を作成しなければならない（商法第32条、商法第281条）。</p> <p>その決算書は、利害関係者（経営者、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、この種のディスクロージャー（情報公開）が社会的に必要とされている。決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 複式簿記の原理…(1)簿記の意義と目的 (2)簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益） (3)簿記の仕組み(取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目) 仕訳帳と元帳… (1)仕訳と仕訳帳 (2)転記と元帳 試算表… (1)試算表の意味と種類 (2)試算表の貸借合計不一致 決算（その1）… (1)決算の意味と手続 (2)帳簿決算(英米式・大陸式) <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 取引の記帳…(1)現金・預金取引(2)商品売買取引（仕入帳・売上帳 商品有高帳・商品売買益の計算）(3)信用取引(4)手形取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形）(5)有価証券取引(6)固定資産取引(7)個人企業の資本取引 決算（その2）…(1)決算整理の意味(2)棚卸表(3)棚卸減耗損と商品評価損(4)貸倒引当損と貸倒引当金(5)有価証券評価損(6)減価償却(7)費用・収益の繰延べと見越し(8)精算表 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを2回実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定3級に合格した場合は、成績評価に加算する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>検定簿記講義3級商業簿記 井上 達雄 新井 清光 編著 中央経済社</p> <p>検定簿記ワークブック3級商業簿記 井上 達雄 新井 清光 編著 中央経済社</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中田信正・徐 竜 達・堀 友章・全 在紋（共著） 「現代簿記論」（中央経済社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代思想		通 期	4 単位	山 崎 充 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「20世紀は戦争と革命の世紀である」とはすでに今世紀半ばに言われたことである。あと3年足らずで21世紀なろうとする今日から振り返っても、この世紀が様々な顔を持っていることが明らかになる。戦争・革命・冷戦・技術革新・大衆社会・魔女狩りなど、20世紀を形容する言葉は様々であり、とても一言で表現できるものではない。社会が多様な姿をしていれば、そこから生まれる思想もまた多様な姿をとるようになる。</p> <p>この講義では、多様な姿を見せる20世紀の思想を概観し、その歴史あるいは社会的な意味を考える。対象とする地域は、担当者の専門上、主としてヨーロッパとするが、必要に応じて比較思想的な分析を取り入れたいと考えている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> ヨーロッパ世紀末 ～19世紀末の思想状況 ヨーロッパ知識人の危機意識 ① P・ヴァレリーにおけるヨーロッパの危機 ② E・クルツィウスにおけるドイツ精神の危機 革命の思想 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> ナチズムとユダヤ人問題 ～知識人とナチ 戦後処理をめぐって ～「ナチズムは特殊か否か」の論争 比較思想の観点から ～同時代人として20世紀思想をどう考えるか 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験によって行うが、ある程度の水準の答案を要求する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代思想史		通 期	4 単位	松 浦 玲
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>前近代の思想から近代思想に頭を切替えなければならない激動期に生きた人物群の中から勝海舟を取上げる。ペリー来航のとき31歳、幕府倒壊の戊辰戦争のとき46歳だった海舟は、明治32年77歳まで生きて、福沢諭吉とは違うタイプの近代思想を語り続けた。教科書指定はしないが月刊誌『論座』に勝海舟評伝「遙かな海へ」を連載中なので、講義に並行して読むと理解が進む。</p>	<p>幕府を内側から倒した海舟が、薩長藩閥の支配する明治政府をどのように見たか。西南戦争で敗死する西郷隆盛と親友であることを強調し、西郷は征韓論ではないと言いつける独特のアジア主義。その時期を追っての展開を探索する。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
受講生が多ければ試験、少なければレポート	講義の進行に従って挙げていく。			
[教科書]				
使わない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業技術論 (旧技術と生産過程)		通 期	4 単位	並 川 宏 彦
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>技術の発展は、社会の発展を支える重要な役割を果たしている。産業技術論は、技術の発展と社会の発展の関係を明らかにし、技術の発展の歴史と現状を解説する。また、技術の発展の未来を展望し、技術の発展を促進するための政策を提言する。</p>	<p>第1章 産業技術論の意義と重要性 第2章 産業技術の歴史と現状 第3章 産業技術の発展の要因 第4章 産業技術の発展の課題 第5章 産業技術の発展の未来 第6章 産業技術の発展を促進するための政策</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
レポートの提出を課す。期末に試験をする。試験の点数とレポートの評価で成績をつける。	最初の授業の日に、各章ごとの参考文献を示す。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習	01 02 03 04 05 06 07 08 09 10	通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期	6単位 6単位 6単位 6単位 6単位 6単位 6単位 6単位 6単位 6単位	石 田 易 司 上野谷 加代子 大 西 雅 裕 郭 麗 月 北 野 誠 一 小 西 加保留 阪 野 学 坂 本 光 哉 松 端 克 文 安 原 佳 子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>1 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をすすめるうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。</p> <p>2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力・技術を習得する。</p> <p>3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。</p> <p>4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。</p> <p>5 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。</p>	<p>1 実習オリエンテーション（社会福祉現場実習の概略を学ぶ）</p> <p>2 福祉施設・機関・団体研究（視聴覚学習、現場体験学習、見学実習）</p> <p>3 専門援助技術実技指導（事例研究・ロールプレイを含む）</p> <p>4 面接実技指導</p> <p>5 記録実技指導</p> <p>6 評価・効果測定実技指導</p> <p>7 配属実習</p> <p>8 実習先個別報告と評価</p> <p>9 業務分析</p> <p>10 事例研究・実習計画モデル作成</p> <p>11 実習記録に基づく実習総括レポートの作成</p> <p>12 個人スーパービジョン（自己覚知）及び集団スーパービジョン</p> <p>13 全体報告・総括会</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。	授業時、提示する。			
[教科書]	授業時、提示する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スポーツ文化論 (旧身体文化論)		通 期	4単位	松 浦 道 夫
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>まず、現代社会の特徴と体育・スポーツの発展、関係を概観します。そして背景の思想・精神・文化を知り、スポーツとの関連を考察します。いいかえれば、スポーツ文化論を通して、集団としての人間、社会を理解することをねらっています。</p>	<p><前期> 1. 現代の体育・スポーツ 2. 近代イギリススポーツと社交の精神 3. イギリスのギャンブル精神とスポーツ</p> <p><後期> 4. アメリカスポーツとメンバーチェンジの思想 5. 近代日本のスポーツと勝敗感 6. 国際化と日本のスポーツの変化</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
適宜エッセイを課し、学年末テストと合わせて評価します。ただし、受講生が多い場合は変更することもあります。	授業の進行に合わせて知らせます。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
貿易論		通 期	4 単位	太 田 一 朗
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>今や世界経済はメガコンペティション(大競争)とグローバルスタンダードの時代である。この波に対処できない企業や社会は衰退するしかないであろう。今まで規制に守られてきた日本の金融業界は、それらに対処する為のビッグバンに直面している。このような難しい時期に日本企業はどのように世界とかがわって行けば良いか。</p> <p>この貿易論では、まず日本の貿易システムを中心に、国際貿易について学習する。国際取引の基本となる前提条件、関税、外国為替と決済方法などについて、系統立てて勉強する。国際ビジネスを進めていく上で不可欠なマーケティング理論も併せて学習する。次に貿易の必要性を理論を通じて理解する。さらには南北問題、地域経済ブロック、貿易摩擦など政策について考える。</p>	<p><前期>貿易実務について学習する 輸出手続き 輸入手続 外国為替 貿易取引条件</p> <p><後期> 貿易理論 貿易政策 貿易の現状 国際マーケティング</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
原則2回(前・後期)のテストによるが補完的にレポートを求める場合もある。				
[教科書]				
来住 哲二著『基本貿易実務』(同文館)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
交通論		通 期	4 単位	松 澤 俊 雄
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>講義の概要は以下に示される通りである。</p> <p>1. 「交通」の性質と把握、 2. 交通サービスの需要 3. 交通サービスの供給費用、 4. 交通行動と時間価値 5. 交通サービス市場と価格政策、 6. 交通事業と公的介入、 7. 公共交通の運営、 8. 自動車交通分析、 9. 物流、 10. 都市交通分析、 11. 都市交通のインフラ整備、 12. 都市交通政策の課題</p> <p>各項目について2～3回の講義をおこなう。講義はできるだけ平易・丁寧に行い、1年後には受講者が、交通企業の経営、交通サービスのマーケティング、交通問題などについて、何らかの意見を提示できるようになることを目標とした。</p>	<p>前期は「交通」サービスの把握、交通需要、交通費用、交通企業行動、企業間競争、規制など、交通論の基礎的分析を中心に講述し、後期では都市交通を中心に交通政策の課題について講述する。講義の進め方は教科書と板書によるが、補助的教材も配布する。また理解度を高めるため、レポートの提出(提出者には加点)を求める予定である。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>学年末試験による (講義時のレポート提出も考慮)</p>	<p>松澤俊雄編『大都市の社会基盤整備』 東京大学出版会</p>			
[教科書]				
藤井・中条編『現代交通政策』東京大学出版会				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用II (旧電子計算機II)		通期	4 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何が出来るかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。</p> <p>履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。 ・計算機センターの施設を用いた実習が主体となる。 ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピュータの経験を持たないものにとってはハードな講義となる。 ・実習主体の講義であり、自習も必要となる。 ・基本的には連絡は電子メールで行う。 		<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを作ってみる。 ・プレゼンテーション・ソフト ・unixの基礎 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オブジェクト指向とJava 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末レポートを主に、平常成績を考慮し、総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>進行状況に応じて指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>進行状況に応じて指示する。</p>				